

目の検査

宮前雄司 伊達市立東小学校（4年）

第25回北海道教育美術展奨励賞作品

評 検査する人とされる人の
対比が白黒で表わされ、
真剣さが伝わってきます。

目次

人間性の回復に向けた造形教育の構築を……………2
北色に輝け子どもたち……………3
第49回全道造形教育研究大会・オホーツク大会……4

第50回全道造形教育研究大会・函館大会……………6
地区サークル紹介／あとがき……………8



北海道 造形教育 連盟報

No. 108 1999.7.15 発行

発行 北海道造形教育連盟

事務局 〒004-0845 札幌市清田区清田5条2丁目18-1
札幌市立清田南小学校 藤井正治
☎011-881-1975 FAX011-881-9759



人間性の回復に向けた造形教育の構築を

北海道造形教育連盟

事務局長 藤井 正治

(札幌市立清田南小学校)

はじめに

平成11年4月29日の地区委員総会におきまして、11年度の活動方針並びに新役員が承認され、北海道造形教育連盟の活動が開始されました。

活動方針の柱である研究成果の発表と交流の場としての「第49回全道造形教育研究大会・オホーツク大会」は、網走市立西小学校を主会場として開催されることとなりました。

オホーツク造形教育連盟の会員を始め、網走管内の図工美術に携わる先生や関係機関の方々には、大会開催に関わり大変なご苦勞をおかけいたしますが、大会主題であります「オホーツク発 思・創・喜・感 ～一人ひとりが創造的な喜びを実現するために～」という願いが大きな成果となって結実する大会でありますよう、心よりご期待申し上げます。

感じることの大切さを糸口に

本連盟は、1951年に結成されて以来、来年の函館大会で50周年を迎えようとしています。

戦後の混乱期から高度成長期を経て、バブル崩壊の今、造形教育もまた「心の崩壊」を眼前にして再構築を迫られています。

連盟がその研究の中核に位置付けてきた「個性」と「感性」は、図工美術教育に止まらず教育全体の課題となってきました。

その意味で、図工美術教育に果たす私たちの研究は益々重要性を持ってきていると言っていいでしょう。

しかし、今回の教育課程の改訂に見られる図工美術の現状は、決して容易なものではありません。

「総合的な学習」との関連で時数の減少が現実となりましたが、時数の減という表面的なとらえだけでなく、図工美術が教科としてどのように評価されているのか、図工美術が果たすべき役割や価値は何なのか、児童・生徒の発達と表現という行為がどう結び付くのか、課題は多面的且つ根源的なものになってきています。

11年度総会において研究部が提案した研究の方向性は、この課題に対する糸口となるものであります。

連盟が主張する「感じること」の重要性は、強要される「思考」から、自発的な「思考」への転換を意味し、人

間性の回復へ向けての後のない取り組みであることを意味しています。

作家の早坂暁氏は、少年たちに宛てた文章の中で、「ちかごろ君たちは、ちっとも夕陽を見ないそうじゃないか」と呼び掛けています。「夕陽を浴びながら家に帰っていくとき、子供たちの心には、『家』『家族』へのイメージがゆっくりと、確かに、鮮やかに定着していく」のです。

夕陽の輝きを光のスペクトルと空気の質量で思考する前に、夕陽に染まる空や雲の美しさに目をやり、昼間の喧騒から静けさを取り戻した中に伝わる生活の音に耳を傾け、存分に遊んだ満足感と友達とのさよならに少しの寂しさを感じ、家族の顔を思いながら夕陽を浴びて帰る心地よさを感じる大切なのではないでしょうか。

それは、〈いま〉〈ここ〉で〈わたし〉が感じることであり、そのことが、〈わたし〉の感性を育ててくれるのだと思います。

「涙が水と塩分からできていることは教えるが、涙の意味について教えていない」と言われる様に、感じることの大切さがどこかで抜け落ちているように思います。

共感・共有できる価値の創造に向けて

アントニオ・ガウディの作品である「サグラダ・ファミリア聖堂」は、100年の時を経て尚、製作が進められています。そして、製作は今後も続き完成の時は見えていないとも言われています。それでも製作が続けられている根源にあるものは、何なのか。

芸術の価値が、人類の幸福にとってかけがえのないものであることを製作という行為を通して伝え続けていることに真摯に向き合うべき時ではないかと思えます。

そして、大量生産と大量消費の中、合理主義と効率主義のレールに乗せられて走り続けた時代から、人間として生きることを問い直し、共に共感し共有しうる価値の創造に向けて歩き出す時代に来ているのだということに認識する時ではないかと思えます。

本年のオホーツク大会に続き来年の函館大会を経て、北海道の研究を提案する2001年の「全国造形教育研究大会／北海道大会」の成功に向けて、さらなる研究の積み上げに全力を傾けていきたいものと考えます。



北色に輝け子どもたち

—第49回オホーツク大会を成功させよう—

北海道造形教育連盟

研究部長 阿部 宏行

(札幌市立中央小学校)

1. 雪が解けたら何になる？

「雪が解けたら何になる？」という質問に対する子どもの答えを私たちはどのように評価するだろうか。

70年代の高度成長期の科学偏重時代であれば「水」という解答だけが浮き彫りとなり、「春」という解答は無視されたであろう。しかし現在はというと国家的に邁進する力は薄れたにしても、まだ「春」になるという子どもの答えを許容できる社会になっているとはいえない。個の確立が叫ばれながらも社会全体は「風潮」に流され、自分自身の心さえ見失っているように思う。

「春」という答えを含め、一人一人の答えに供給できる、来るべき時代に向けて、私たちは何をめざし、何を大切にしなければならないのだろうか。

2. 感じることを大切に

先日、ある高校生が書いた新聞の投書に目がとまった。「私は、季節を数字で感じていました。」と、天気予報に映し出される気温の数字によって“春”を感じていたというのである。

この事実には、私たちが行って来た「教育」の意味を問い返しているように思う。今まで「四季は身体を通して感じるものである」という当たり前のことに警鐘が鳴らされているのである。「裸の王様」を指摘したのは幼い子どもであった。子どもはいつの時代も大人の責任を様々な社会現象という形で指摘しているのではないだろうか。

これらの社会現象に共通しているのが、「感じること」への軽視である。知識の詰め込みが批判されると、今度は「考えること」の育成を唱えだした。しかし、「考えること」は「感じること」が前提にあって初めて意味を持つものである。「感じること」なしに「考えろ！」というのは強要の何ものでもない。「相手の気持ちを考える」ことは、どうしたらよいかという方策（マニュアル）を練るために考えるのではない。それ以前に相手の気持ちを「感じる身体」がなくては成立しないのである。今こそ「感

じること」の教育が重要なのである。これは同時に、教師の「感じる身体（心）」も試されているのであろう。

一人一人の生きている証しとしての「感じること」の大切さを訴えていかなければならない。

この「感じること」の教育に大きな影響力を持つのが、「図工・美術」を中心とする芸術・文化なのである。

3. いま・ここ・わたし —記憶の生成—

一人一人の存在の違いは、身体的な特徴や証明書に記載された項目の違いではない。生きてきた道の違いであり、身体に刻まれた「記憶」の違いであると考えられる。「記憶」は、〈いま〉〈ここ〉で生成される。子どもの「記憶」も教室という場所〈ここ〉で生成されていく。喜びに満ちた「記憶」となるか、ならないか。一つ一つの授業の持つ意味は大きい。〈いま〉〈ここ〉で生成された「記憶」は、〈わたし〉を形づくっていく。他のだれでもない〈わたし〉が存在するのである。

4. オホーツクで出会った子どもたち

昨年の10月にオホーツク支部のプレ大会に参加させていただいた。児童数が全校で16名という女満別の大成小学校がその舞台であった。

授業者の里見貴史先生と子どもたちとの教室は、まるで家族で住んでいるのではと錯覚させるほど温かく喜びに満ちていた。〈ここ〉で子どもの記憶は生成され、〈わたし〉が形成されていくのである。

「朝の道・帰りの道」という題材に映し出された子どもの記憶は、一人一人が生きている〈いま〉を表現していた。

5. 「北からはじまる未来」をみなさんの手で

21世紀の幕開けとなる全国造形教育研究大会北海道大会が札幌で2001年9月6・7・8日に開催される。

2001年の全国大会で「北色」が輝くためにも、オホーツクの海の色を、みなさんとともに網走で「記憶」し、全国の人々の心に映し出したい。

平成11年度

新役員・本部事務局紹介

委員長	芝木 秀昭	(札幌市立手稲鉄北小長)
副委員長	重山 恵	(旭川市立神楽中長)
"	繪面 和子	(函館市立大森小長)
"	関 建治	(恵庭市立和光小長)
"	須貝 徹	(湧別町立芭露小長)
"	多田 純一	(札幌市立もみじ台南中長)
監査	森田 達史	(留萌市立幌糠中長)

監査	内田 暢一	(宗井江町立宗井江小長)
事務局長	藤井 正治	(札幌市立清田南小長)
会計部長	富田 泰	(札幌市立苗穂小頭)
庶務部長	池田 悦子	(札幌市立円山小)
事業部長	田口 和男	(札幌市立白石小)
研究部長	阿部 宏行	(札幌市立中央小)
広報部長	中居 正光	(札幌市立月寒東小)

熱烈歓迎！

第49回 全道造形教育連盟研究大会オホーツク大会

『オホーツク発 思・創・喜・感』

～一人ひとりが創造的な喜びを実感するために～

第49回全道造形教育研究大会オホーツク大会実行委員会

オホーツクの地も、桜・エゾムラサキツツジ・チューリップ・芝ザクラ等次々と開花し、若葉の柔らかい緑と見事にマッチした景観はうっとりとする本当にいい季節となりました。

網走の天都山の桜、上湧別のチューリップ公園、東藻琴の芝ザクラ公園、滝上の芝ザクラ公園等に観光客が道内外から訪れ賑いを見せております。

さて、この程第49回全道造形教育研究大会オホーツク大会の第二次案内を送付させていただきました。

ここまで到達するのに、オホーツク造形教育の会員が広い管内に点在していること等をはじめ、会場校をどこにするのか、授業者はどうするか、幼稚園の会員がいないが幼稚園の授業はどうするか、人事のタイミングもあり網走に誰を異動させてもらえるか等々困難点が数々ありました。

しかし、時間はかかりましたが、網走教育局、道造形教育連盟事務局等の皆さん方のご指導、ご支援により何とか一つひとつ困難点をクリアすることができました。

会場校については、国道に面しており網走で一番わかりやすく中心街に近い西小学校にお願いし、引き受けていただくことができました。

次に、授業者については、昨年網走市内に2名の会員、隣り町の女満別に1名の会員の異動が叶ったことにより目途がたちました。加えて、幼稚園については、会員の叔母に当たる人のお世話により網走の私立幼稚園で引き受けてくれることになり、会員一同胸をなで下ろしました。しかし、小学校の1つの授業予定者が病気で不可能になり、この部分を埋めるのに時間がかかりました。そこで打った手は、会場校の先生と造形連盟の会員がTTで授業を行うということです。白羽の矢を道造形連盟研究部長の阿部宏行先生に立て、お願いすると共に、会場校である西小学校にも働きかけ、時間を要しましたが引き受けていただけることになったのです。

更に、今年度の人事異動により、網走市内に佐藤大会実行委員会副委員長・阿部大会実行委員会事務局長・石

橋大会実行委員会研究部長の3名が入ることができ、準備が一段とスムーズにできるようになりました。

この大会では、

『オホーツク発 思・創・喜・感』～一人ひとりが造形的表現活動の喜びを実感するために～を研究主題としました。

この研究主題の具現化については、子ども一人ひとりが、本来の生き生きとした創作活動を展開し、自らその良さや可能性を発揮し、育っていくようにするために、『思=個性、創=創造、喜=喜び、感=共感』の観点から迫っていかうと考えました。

シンボルマークについて



◇デザイン制作 上湧別中学校
平岡良一

オホーツク海の流氷の下に生息する『神秘的妖精クリオネ』を主モチーフに、全体のオホーツクブルーは、澄み切った空、海などの特色あるオホーツクの風土をイメージし、中心のハートのコーラルレッドは、本研究大会成功にかけるとともに、私たち会員の熱き心の意を込めました。

授業の見どころ

〈 1 日 目 〉

- その1 幼稚園でのTT方式による授業
- その2 小3年生「ビデオと作品解説による授業」
- その3 小4年生の外部講師による授業(担任はサブ)
- その4 小3~6年までの複々々式による授業
- その5 中学における個人選択による授業

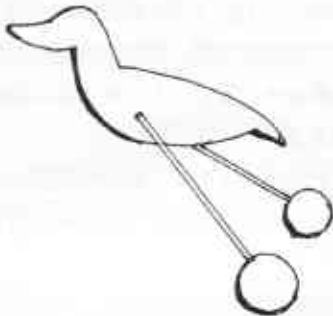
実技研修の内容

〈 2 日 目 〉

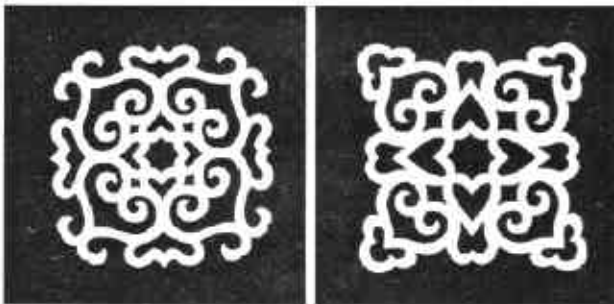
実技研修については、網走を含めたオホーツク海沿岸に独特の文化を築いていた北方民族にちなんだものをご用意しました。いずれも、当時の人々が使っていた遊び道具や装飾品を、北方民俗博物館の学芸員の方が教材化したものです。

完成作品を紙上で紹介します。

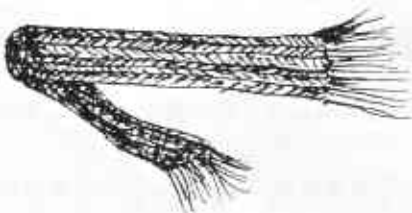
1. ウイルタのやじろべえ …会場「てんとらんど」



2. ウイルタの切り紙紋様 …会場「てんとらんど」



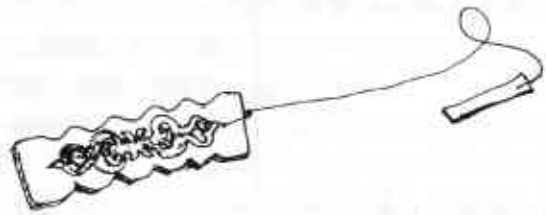
3. サミのひも …会場「てんとらんど」



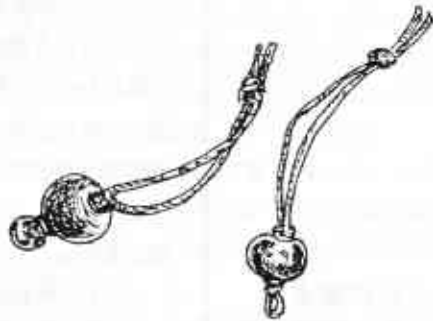
4. ナーナイのペンスタンド …会場「てんとらんど」



5. イヌイットのうなり板 …会場「てんとらんど」



6. とんぼ玉(ガラス) …会場「北方民族博物館」



当日は、6番目の「とんぼ玉」は、北方民族博物館において、学芸員が直接指導して下さいます。

その他の1~5については、博物館から300m程離れた「てんとらんど」のセンターハウスで、オホーツク造形会員が店長となり指導致します。沢山のおみやげをお持ち帰りいただくことができますと思います。

私たち会員一同、全道各地からお出で下さった皆様「来てよかった!」と喜んでいただけるよう最後の準備に総力を挙げています。

熱烈歓迎! 7月27日・28日は皆揃って網走へ!

◆お問い合わせ先◆

〒099-3119 網走市鱒浦79

網走市立南小学校

第49回全道造形教育研究大会オホーツク大会

実行委員会事務局長 阿部 賢一 宛

TEL 0152-43-3398

FAX 0152-43-8877

～20世紀から21世紀へ～

心の風景(ビジョン)の発信を!

函館市立戸倉中学校
中村吉秀

『心のふるさと＝函館』
国際性と歴史性
そして美しい自然

風土を生かした
造形活動の創造

グローバルの視点を
加味して

豊かな国際性と歴史性があり、さらに美しい自然が織り成す函館の風土から、子供たちは心的に様々な影響を受けており、そのことは成長に大きな意味を持っている。

この味わい深い函館の街を『心のふるさと』という発想に立ったとらえ方により、造形教育の在り方が見えてくるのである。つまり、子供たちが生まれ育ち、その生き方に大きな影響力を持つ地域を認識することで、一人ひとりの誇り・愛着が高まり、生活や風土を基盤とした“真の想”が生まれるのである。これは、人として必要とされている表現力の基本的な部分になると考える。

誰にとっても地域の風土により刻み得た姿は大切である。それは、多感な時代を生きてきたという実感の積み重ねのことである。しかし、住み慣れている私たちにとって、そのことを再認識することは大変難しい。そして、造形教育の視点に立って言えば、「生活をしているという実感が希薄になっている状況において、現代という時間の流れの中でいかに子供たちにかかわることができるか」という大きな課題をもって取り組むが必要になる。これは、「その風土を生かした造形活動を創造していこう」という姿勢の欠落」という反省に立つものである。つまり、地域を基盤とした先見性や夢、潤い、喜びに満ちた“懐かしい大切な思い”を、どのように授業の中で昇華させ、美しいものを素直に認める美的情操にまで育むのか、考えなければならないのである。

しかし、それは「地域の特色ある素材を使って地域を生かす」という発想のみでは解決できない。ここで生活し、多くの思い出の中で培った体験や様々な諸条件、つまり地域が

第26回北海道教育美術展

会期…平成12年1月

第25回 奨励賞作品



函館市立万年橋小学校

1年 佐藤 弥世妃

北海道教育美術展は、全道各地の保育所、幼稚園、小学校、中学校の子ども達の作品を集めた道内最大規模の展覧会です。子どもの想いにあふれ、素直でのびのびとした作品が多く、指導者の熱意とともに全国的に高く評価されています。

今年度も、子どもらしく楽しい作品、豊かな感性にあふれた作品を期待しております。日常の学習の中で取り組まれた作品を多数応募くださいますようお願い致します。

奨励賞作品で研修しませんか？

奨励賞作品は、貸し出しをしています。スライドも用意しています。研修会などにご活用ください。

(貸出料・送料は実費負担です) 申し込みは事務局へ!

『豊かな自分づくり
を生かす想創学習を』

想創学習とは？

7つの分科会から発信

道南の協力体制で

造形教育の意義を
明らかに

持っている環境すべてに“グローバル”という視点を加味したい。このことによって、単に地域のみを見つめるということではなく、地域に根差しながら広いものの考え方・見方を持つことになる。それによって、ふくよかで幅広い視野を持った造形教育を創り上げることができるのである。

大会テーマとしては『20世紀から21世紀へ～心の風景（ビジョン）の発信を！』をかかげる。“心の風景（ビジョン）”は、まさに子供たちが地域から影響を受け、体験した先見性や夢、潤い、喜びに満ちた“懐かしい大切な思い”が基底にあることを指す。そして、『豊かな自分づくりを生かす想創学習を』は、豊かな授業づくりの基本となるものである。このことは、基礎的な能力・心の形成において、間違いなく造形教育が重要な役割を持っていることを確認することであり、満足感・充実感を得る場でもある。また、心の変容と向上を自分自身で再確認する貴重な時間にもなる。

“想創学習”とは、豊かな人間性の育成の主旨と関連し、心の根幹をなす“優しさ・思いやり・頑張り・美しさ・正義・公正・公平”などの醸成を意味する。そして、めざしている学習活動は「自分自身の中で大切にしているイメージを膨らませ、自分自身と向き合い、構想と表現を試み努力を継続（追求）する」ことによって、「心をよく働かせ、ものをよく観て、美しさやよさを感じ取る感性」を高め、「色と形・特徴や情感などをとらえる力」を伸張することである。

さらに、創意工夫し総合的に実践するために、『①社会からの発信 ②科学からの発信 ③空からの発信 ④大地からの発信 ⑤火からの発信 ⑥水からの発信 ⑦命あるものからの発信』という構想で、7つの分科会構成を考えている。これらの分科会が1グループとして各々研究を推進し、道南（函館・渡島・松山）の協力体制で大会を作り上げたいと考える。

今存在している日本文化に包摂されながらも、この世界から自分なりの距離をおいて、どのように“自分らしい生き方（豊かに生きる術）”を見つけるのか。この視点を強調することは、『心のふるさと』（地域）を大切にすることにつながるとともに、子供たちの持つべき文化的自立の基礎を獲得することになり、そのことが情操を養い、造形教育の意義を明らかにすると信ずるのである。

13日(木)～18日(火)

締切…12月16日(木)

【 応 募 規 定 】

◇絵画、版画、デザイン等の作品とし、学校(園)を窓口として応募する。

◇大きさは4つ切り。4つ切り以下の作品は4つ切り大の台紙を貼ること。

◇一人1点の出品とする。また、新しい表現の作品についても検討され、次のような基準で半立体作品も取り上げられています。

- ・積み重ねてもつぶれない、かさばらないこと。
- ・接着が強固ではがれないこと。
- ・画鋏で展示が可能な重量であること。

主催 北海道造形教育連盟
北海道新聞社
後援 北海道教育委員会
協賛 さっぽろ東急百貨店

 株式会社 サクラクパス

【応募先】 〒006-0812 札幌市手稲区前田2条12丁目1-2
札幌市立手稲鉄北小学校
北海道教育美術展 宛

【問い合わせ先】 札幌市立創成小学校 稲實 順
TEL 011-241-1756 FAX 011-241-1757

地区サークル紹介

札幌

石狩

空知

留萌

後志

檜山

函館

渡島

胆振

上川

旭川

室蘭

苫小牧

十勝

帯広

釧路

オホーツク

根室

18

今回からシリーズで地区サークルを紹介していきます。2001年大会は全道の力で成功させましょう！

●釧路造形教育研究会

「実践」と直結する分野の充実を…

釧路造形教育研究会は5月22日の「総会」をもって組織も新しく平成11年度の活動を開始しました。昨年度は4回目を迎える「釧路造形教育展」を「世界児童画展」とタイアップさせながら、会場も釧路市の中心部にあたる丸井今井ギャラリーで実施し、世界の子供の平面作品と釧路の児童生徒の立体作品の競演というユニークな展示会になり、市民からも好評を得ることができました。他にも、各種展示会の審査協力や北海道造形連盟顧問である金井先生の「水彩画指導」の研修会、人物クロッキーの実技研修会など、会員をはじめ釧路の先生方の資質向上のための取り組みも進めてまいりました。

今年度は「授業研究」や「児童生徒の作品交流」など実践と直結する分野の充実を図りながら、それぞれの活動をさらに発展させていきたいと考えています。

〈釧路市立美原中学校 中谷内 遵〉

●旭教研図工美術サークル

「文化の創造～4部の活動」

旭川市内の小・中学校の美術教師による教育研究サークルです。今年度は93名の会員でスタートしました。研究・研修・事業・編集の4部で活動を進めています。

研究部は、毎年研究テーマに基づき「授業研究」を中心に小・中の交流を深めています。研修部は教材に生かしていける実技講習会を実施しています。昨年度は、発泡スチロール工芸を行いました。また全道造形研究大会への参加を呼びかけたりしています。事業部では、小学校作品展をはじめ、小中学生絵画・版画展の事業を行っています。編集部は、その絵画・版画展の入賞作品を画集としてまとめています。作品の記録とともに、学年の系統性や参考作品として授業の中に生かされています。それぞれ、35回、37回と回を重ね、部会の重要な仕事の一つになっています。その他、第13回を数えた「彫刻の森」大会（小・中学生が学校単位で彫刻の1作品を制作・展示）の運営や制作指導にあたっています。

総合的学習の取り組み等をはじめ、文化の創造のために、専門性をよく磨き、子どもたちの活動を支援していきたいものです。 〈旭川市立明星中学校 川合 薫〉

●根室造形教育連盟 「感性から発し 躍動する力を育て」

私たち根室造形教育連盟は、山口長伸委員長を筆頭に11年度のサークル員が15名という小所帯で構成され、このほどスタートしました。本年度の活動計画については、次の三本柱に重点をおいて取り組むことになりました。

- ①第49回全道造形教育研究大会・オホーツク大会への参加
- ②大会での成果の根室管内公立幼稚園・小中学校・高等学校への還流
- ③図画工作科・美術科の実技研修会の開催（継続事業）

さらに、今年度は12月に根室管内教職員美術展を開催します。平成6年度において、根室市で開催された「根室地区教職員美術展」は、当管内の教育関係者に呼びかけて実施されました。開催直前の大地震により、市総合文化会館が使用不能になり、急遽、旧市立図書館で行われましたが、大きな成果をあげることができました。今回は、開催地を中標津町に移し、絵画・彫刻・工芸・書道・写真等の美術作品を町総合文化会館に展示します。優れた作品を発表するため、実行委員会を設立して、本連盟を中核に据えて取り組んで参ります。 〈中標津東小学校 大井誠一郎〉

— あとがき —

全道の会員の方と顔を合わせる機会は少ないですが、広報は会員の皆さんと連盟を結ぶ大きな役割と認識し、今年も活動を始めました。昨年留萌大会、そして今年のオホーツク大会からの発信を、皆さんの強力なバックアップで「2001年全国大会～北海道大会」につなげましょう。

広報部／小泉 誠, 東 尚典, 山室ゆかり, 太田寿栄子, 富田賢司, 中山龍男, 加藤正幸, 土肥宏充, 中居正光